

6. 調査研究発表内容とコメント紹介

千住地区部会

「千住地域の特性に合わせたまちづくり」

1. 千住の景観について
2. 水害・災害について
3. 千住地区の活性化について

(推進委員)

中屋 房一 杉山 満 川邊 凱久
岡野 伸一郎 吉田 祐一 村田 雅利
間嶋 昭人 大木 一郎 飯尾 憲彌

(カウンセラー)



千住地区部会においては、平成29年度から令和元年度の3年間においてテーマに添ってまち歩きを行い、現地を調査、確認し都市計画マスタープラン提言内容をもとに研究し、地域の課題についての情報を共有し、区に研究結果を提案しました。千住は、かつて江戸四宿の一つで、川柳に「千住品川むらさきのたもとなり」と詠まれるほどの町でした。旧日光街道に残された旧家旧跡、神社仏閣・銭湯・足立市場・四本煙突等の名所を継承しながら、下町らしい情緒ある「路地（露地）文化」そこに残る人情など、先人が残してきた目に見えないものを、都市開発における整備のなかでも次世代に伝えていける環境づくりを今後も目指していきたいと思ひます。

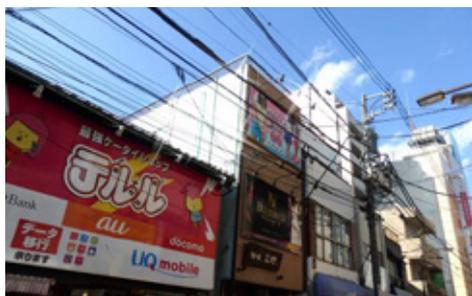
1. 千住の景観について

①主要道路の無電柱化の促進

*現在、墨堤通りの一部が完成し工事は継続中です。街路樹について第六建設事務所と地域（関連町会）が相談し、これまでの街路樹であるイチョウを街路樹向きの桜にした経緯があります。今後予定されている所でも地域とのコミュニケーションが必要と思ひます。



墨堤通りの無電柱化（桜開花時） 桜木1丁目付近



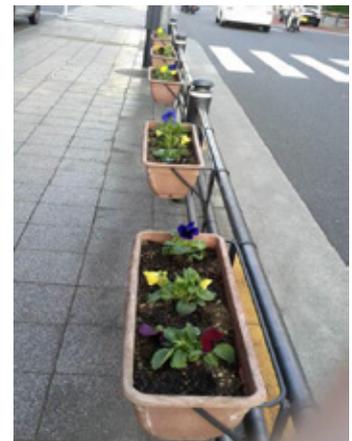
*宿場通り商店街等で見かける配線が重なりまるで鳥の巣のような状態が多く見られる。今後、整備の取組が必要と思われる。

②公園、歩道等において「ビューティフル・ウィンドウズ運動」活動の呼びかけ

*公園の樹木といえは低木のツツジ等が多くゴミのポイ捨てがしやすい環境である。そこで、地元小中学校・地域の連携事業で公園の緑地を花壇にする事で環境がよくなると思われる。区の助成制度新設の検討を望む。



春のチューリップ開花時



秋の開花時

*上記は、千住桜木町公園にて小中連携事業で地域の方達と花壇づくりを行っている。

*他区で見られる、通学路にプランターの設置事例↑
*トラスト制度を活用する事も良いかも

③違反広告物除去協力員の増員、区・地域の協力で違反広告物を一掃する 違反広告物を除去できる範囲を広げ景観を守る提案

*現状は、区での違反広告物除去協力員は、2年ごとに委嘱され活動をしている。

*広告物の撤去は、電柱等へ貼ってある物のみで、コーン等に設置した物に対しては協力員では対応できず、区に連絡し区の職員の対応となっている。

*建売住宅の販売時が特に多い。土日には、通りから現地までの間80~90枚の掲示がある。撤去後も土日には、新規に掲示され完売するまで続く。



違反広告物除去協力員で撤去できる範囲（電柱への広告）



違反広告物除去協力員では撤去できない範囲（コーン、立て看板での広告）

④千住地域の桜並木を守る(老木の対策)

*千住地区の桜並木を観光協会、区の関係紙等での啓発を望む。

*40~50年経過した老木が多くあり、樹木医等で調査し植え替えを予定されているようだが、伐採し根が抜けるようになるには5年以上かかるため進捗が今一つのような。今後も是非、巡回確認を続けて頂きたい。



千住元町



千住桜木



常東小学校



柳原千草園



千住大踏切通り、柳原地区桜並木



老木対策



1. 千住の景観について まとめ

- ①主要道路の無電柱化の促進
- ②公園・歩道「ビューティフル・ウィンドウズ運動/パートナー」活動、参加への声かけ
- ③違反広告物除去協力員の増員、区・地域で協力で違反広告物を一掃する
- ④千住地域の桜並木を守る(老木対策)

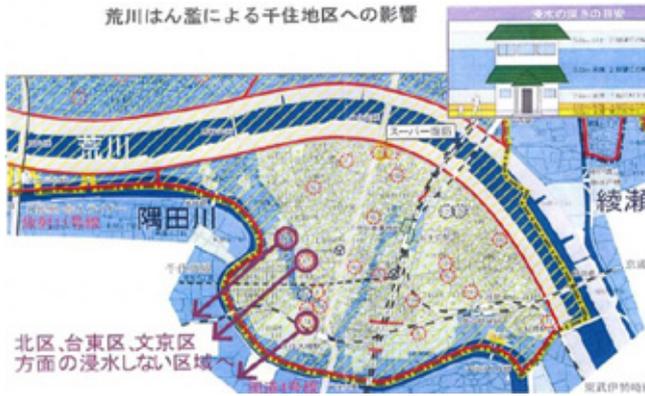
2. 水害・災害について

①荒川、隅田川のはん濫について再確認

*「足立区洪水ハザードマップ(H,31.3月発行)」について、町連単位・避難所運営訓練時に説明会等を実施し常に啓発する必要がある。

*江東5区広域避難推進シンポジウムの発表でもあったように、「広域避難勧告発令」の際、江東5区以外の避難場所・避難先の確保とあるが、一人暮らしの老人等を含め、対応をもう少し具体的に伝達することが必要である。【5区以外に知り合いがいない方の対応?/浸水しない地区との連携体制は?/区内の公共施設及び高層マンション等の受入体制は?】

明日にでも起こりえる水害・災害について区としての対応を再検討が必要。



*千住地区内の雨水貯留施設について
右記3ヶ所は完成している。→

- ・千住龍田町：7,300m³
- ・千住5丁目・千住仲町：14,800m³
- ・千住旭町・千住曙町：7,000m³



←上記3ヶ所をつなぐ
隅田川幹線シールドトンネル貯留施設
(工事中 完成予定：令和2年度)

②災害に備えて

- * 防災用井戸の設置及び水害時の土のう配布についての提案
- * 公共建築物、一定規模の建築物に**防災用井戸**の設置を**努力義務化**とする。(助成制度新設)



* **土のうの配布**は、高齢者等の一人暮らし、車等がなく取りに行けない人への対応として、地域ごとに**設置場所**を設ける。

2. 水害・災害について まとめ

- ①足立区洪水ハザードマップの啓発
- ②避難場所・避難先の具体的な**伝達方法**
- ③浸水しない地区との**連携体制**
- ④**災害用井戸**の設置努力義務化
- ⑤**土のうの配布場所**の増設

3. 千住地区の活性化について

①名所・旧跡の継承

*千住地区には、たくさん名所・旧跡があり、それぞれの商店街、団体においてマップを作成し一生懸命に活動はされているのが見えるが、千住への来場者の取り合いの様にも！そこで千住地区の全体が分かるシステム等を区でまとめる事はできないものか。



各マップ



四本煙突



勝専寺 (赤門寺)



千住神社



千住寿町 大黒湯



千住宿本陣跡



葛飾北斎 富嶽三十六景



横山家

②隅田川スーパー堤防の活用 (商業施設等の提案)

- *現在、千住桜木1丁目、2丁目（帝京科学大学及び桜木1丁目都営住宅の隣接部分）及び千住大橋駅周辺地区隣接部分一部が完成している。（カミソリ堤防の耐震工事も進捗中）
- *現在の利用としては年配者や犬の散歩及び鯉の釣り等が見られる。又、夏場の夕涼みがてらの散歩時には外灯があれば良いとの声がある。
- *防災対策として、災害時の物資運搬に陸路が難しい場合に隅田川を利用する対応も考慮してあるが、今後スーパー堤防の計画時（千住橋戸町、千住大橋防災船着場予定）には、同じ様に物資運搬路を確保されたい。
- *釣り堀、水上スキー施設、隅田川水上遊覧バスなど商業施設づくりを提案する。



③下町人情、ぶらり旅 *旧水戸佐倉道石碑から足立市場、千住大橋までのまち歩き

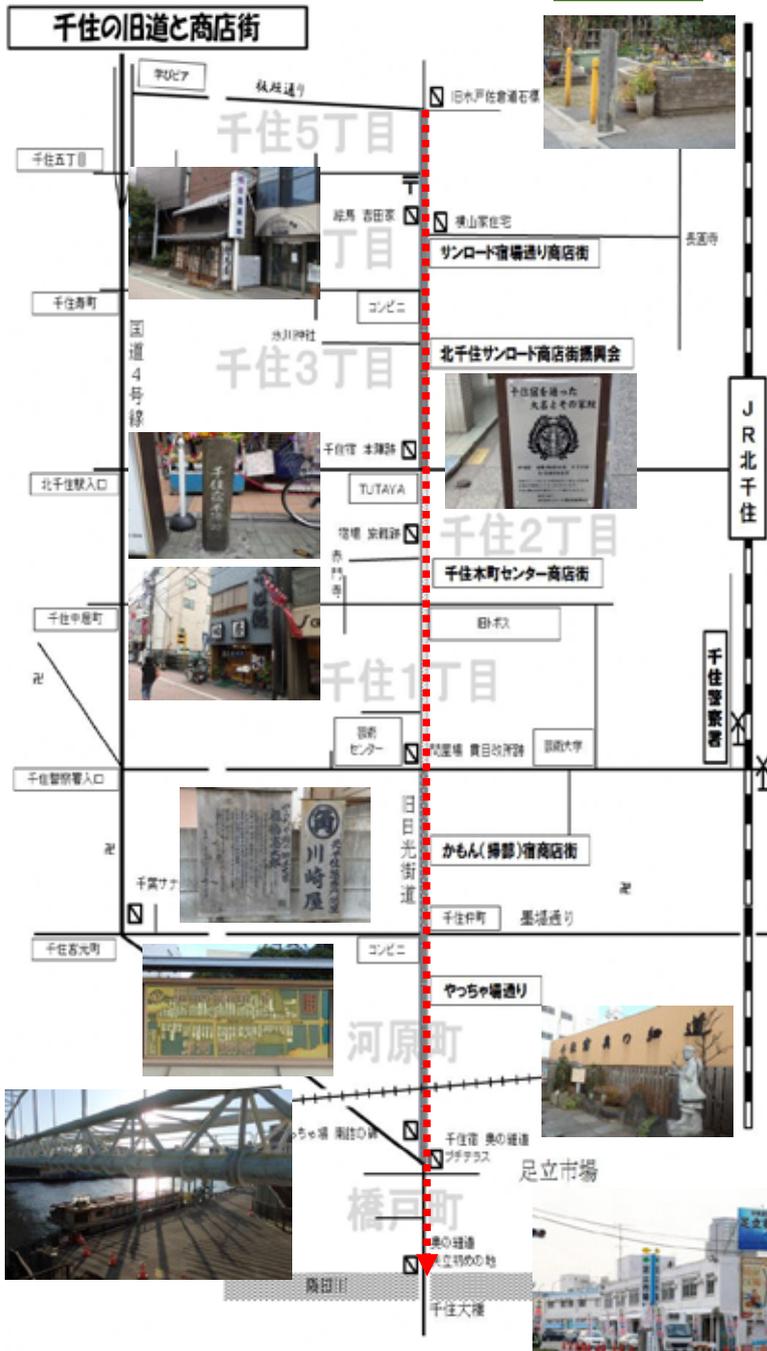


千住宿

千住品川
むらさきのたもとなり



千住宿模型 北千住駅丸井10階



3. 千住地区の活性化について まとめ

- ①名所・旧跡を継承する
- ②隅田川スーパー堤防の商業利用
- ③旧日光街道をまち歩きコースに

【千住地区 活性化の課題】

- *アートシャッター
今後の進展・PR方法…
ファンド制度の利用
- *北千住駅東口 河川と鉄道に囲まれ交通の不便さ
- *北千住駅周辺の公衆トイレが極端に少ない…
- *宿泊場所が(施設)が足りない…



千住地区部会研究発表について

千住の景観をいかしたまちづくり

千住の景観、活性化について、まずは電線の地中化、これはハードとして是非実現していただきたい。実現すれば、さらにより景観のまちが生まれるなと思います。その後のご提案、ビューティフルパートナー、違反広告物、桜の老樹の件、これらのことは、すでに気づいて活動されている地域の方の輪を広げて、情報交換していくといいのではないかと思います。すでに行動に移している方がいる、お互いの活動を知り合うことで、さらなるプラスを生み出していく、そんな千住地区であってほしいと思います。

また、千住には大きな財産、荒川と旧荒川である隅田川、緑と水の自然があります。今、世界中で都市の川の水辺の見直しが起きています。パリやニューヨーク、ワシントン、今後、東京でもこの動きが広がっていくと思いますので、千住地区の水辺のあり方、是非、皆さんで考えていけたらと思います。川に恵まれている足立区ですので、千住地区でもご協力願いたいと思います。



鈴木 誠

東京農業大学
地域環境科学部造園科学科教授

防災というまちづくり

まちづくりというのは防災です。ご提案のあった違法広告物、あるいは老木対策、そして無電柱化などの景観対策は、防災の面でもとても重要です。台風15号、17号などの風台風では、看板が飛んできたり、倒木の危険もありました。特に無電柱化は、風対策を考えると重要な施策だと思います。

今回、千葉県で、唯一停電しなかった地域は、無電柱化していた美浜区。その意味でも重要な所を無電柱化していくのは、とても良い提案だと思います。水害対策、台風19号の対応をされて、ハザードマップの重要性をご理解いただけたと思います。

足立区のハザードマップは、荒川のみならず、中川、江戸川、利根川、綾瀬川、それぞれの川が氾濫したらどうなるかということがわかります。まさにご提案にあった通り、日頃から使えるようにしておく必要があります。

最後に、上流にある調節池、区の中の貯留池などが、台風の時、どう活躍したかなどを、行政が区民に伝えていくことが重要だと感じています。



松尾 一郎

東京大学大学院
情報学環総合防災情報研究センター客員教授
足立区総合防災行政アドバイザー